

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
衛星通信システム委員会（第 50 回）会合 議事要旨（案）

1 日時

令和 7 年 11 月 21 日（金）17 時 00 分～17 時 30 分

2 場所

Web 会議による開催

3 出席者（敬称略、順不同）

（1）構成員

主 査：井家上 哲史

専門委員：梅比良 正弘、加保 貴奈、瀧口 太、寺田 麻佑、豊嶋 守生、三浦 佳子、  
三次 仁、森川 博之

（2）事務局（総務省 基幹・衛星移動通信課）

：山野課長、糸電波利用分析官、渡辺課長補佐、矢萩係長、宮山官、鈴木官

4 議事概要

議事に先立ち、事務局から構成員の出席状況の報告、配付資料の確認等が行われた後、以下の議題について検討が行われた。

（1）衛星通信システム委員会報告（案）について

（資料 50-1、50-2、50-3 に基づき事務局から説明が行われ、以下のとおり質疑応答があった。）

梅比良専門委員：資料 50-2 の 7 ページについて、ローカル 5G 及び第 5 世代移動通信システムに対して「適切な措置を講じることを前提に」と記載があり、さらに、第 5 世代移動通信システムに対しては「実際の運用に当たっては関係免許人間で個別に運用調整を行うことが適当である」と記載があるが、対処方針としては、上記サービスのエリアをアマゾンに通知し、アマゾン側の運用において干渉を回避するという理解でよいか。

事務局：ローカル 5G は 28.2GHz から 29.1GHz までの周波数を使用しているが、そのうち 28.45GHz から 29.1GHz の周波数帯については、移動業務を行うローカル 5G の局よりも固定衛星業務を行う宇宙無線通信の局が優先されており、ローカル 5G の局は屋内利用に限定されている。当面の間は 28.45GHz から 29.1GHz の周波数帯に限定して Amazon Leo システムを運用する予定であることを確認しているため、28.45GHz から 29.1GHz の周波数帯については問題ないと考える。28.2GHz から 28.45GHz の周波数帯のうち、Amazon Leo

システムと重複する 28.35GHz から 28.45GHz については、運用調整を行う必要がある。今後ローカル 5G を取りまとめるような業界団体等が現れた場合、当該団体を通じて運用調整を行うということも考えられる。また、総務省を經由し、個別に運用調整を行うことも考えられる。いずれにしても、調整スキーム等については、関係者を含めて継続して検討が行われることとなる。

また、第 5 世代移動通信システムと Amazon Leo システムとの共用において、Amazon Leo システムのゲートウェイ局については、周辺に防護壁を設置する等の所要の対策により共用は可能であると考えられる。Amazon Leo システムの端末局については、机上計算上、所要改善量が 2.3dB 残る結果となったが、実際の運用状況等を踏まえて関係者間で調整を図ることにより、共用可能になるものと考えている。

梅比良専門委員：ローカル 5G については理解した。第 5 世代移動通信システムについては、RR 上どちらも一次利用で対等な関係であると認識している。場合によっては、携帯電話サービスが自由に展開できなくなるという事態が起これるのか。

事務局：否定はできないが、そうならないよう、個別に運用調整を行うことが適当であるとしている。

井家上主査：特に修正の意見は出なかったため、提出意見とそれに対する委員会の考え方や案及び委員会報告案については、案のとおりで確定とさせていただく。

## (2) その他

事務局から、12月8日に開催予定の情報通信技術分科会において、委員会報告を審議いただく予定である旨、また、一部答申となった場合には、総務省において必要な制度改正を実施する予定である旨の連絡があった。

以上